

稱讚 二二九号

二〇二二年一月一日発行

謹んで新春のお慶びを申しあげます。
新型コロナウィルス感染から三年目を迎えました。「With コロナ」まではまだまだのようです。呉々も、ご自愛にてお過ごしください。

発行 浄土真宗本願寺派 稱讚 寺

〒二二一〇〇七五

東京都足立区一ツ家三丁目五番二〇号

TEL 〇三―五二四二―二〇二五

FAX 〇三―五二四二―二〇二六

HP shousanji.com

ただし、いま論ずるところの
末法には、ただ名字の比丘のみ
あらん。この名字を世の真宝と
せん。福田なからんや。
たとひ末法のなかに持戒あらば
すでにこれ怪異なり、市に虎あ
らんがごとし。これたれか信ず
べきや。
(『教行信証』化巻中『末法灯明記』引用文)

お陰様で、この足立に開教して二十年目を迎え、四十歳だった私は、今年六十歳になります。
ついこの間、十年になるなあ、そろそろ宗教法人取得に取りかかろうと思いつつながら



あつという間に、それから十年が経ってしまいました。

約六十年程前、前々ご門主様が「形ばかりの僧侶・名ばかりの門徒」と言われ、僧侶の資質が問われ、寺院の教化活動が推進されました。

私は大学卒業時に得度して僧侶になり、爾来、僧侶としての意識を持って歩んできたつもりでありました。

そして、二十年前に開教に至ったわけですが、いつの間にか、自分が「世帯仏法腹念仏」そのまの営みになっていたようです。

末法の時代、既に最澄さんが、「無戒の名ばかりの僧侶こそが、世の中の真宝である」と仰っておられます。持戒していると思いついでいる僧侶は、「市中に虎が居るようなもの」であるから誰も信じないとも仰いました。

私自身は、形ばかり名ばかりであるにも拘わらず、「さすがお坊さん」「周りとは異なるなあ」と狭い地域で、その虎に成ろうと、驕っていたのだらうと思えます。

正信偈の「道俗時衆共同心 唯可信斯高僧説」を味わい、ご一緒にお念仏申しながら、歩んで参りたいと思います。



去る十二月十九日に、当寺の宗祖親鸞聖人報恩講を営みました。当日は、新型コロナウイルスも少し落ち着いたように思えましたので、昨年より多くご参拝してくださいさると思っておりましたが、お昼前に、早崎さんが、用事があるというので、お参りに来られ帰られ、一時になってもどなたも来られませんでした。

『寺報』にご案内を掲載しただけでは、不親切だったかなあと反省しました。

ほどなくして、中木原乃既子さんと高橋八重子さんが参拝に来てくださいました。

姉と合わせて、四人でおつとめいたしました。今回は、お正信偈をお唱えする前に「御本典作法」を初めて取り入れてみました。「御本典作法」の歌詞は、『教行信証』の中、親鸞聖人ご自釈の御文を集めたもので、次のような作法であります。

〈念仏〉

南無阿弥陀(仏) 南無阿弥陀(仏)
南無阿弥陀(仏) 南無阿弥陀(仏)
南無阿弥陀(仏) 南無阿弥陀(仏)
南無阿弥陀(仏) 南無阿弥陀(仏)

〈宿縁〉

ああ 弘誓の強縁 多生にも値ひがたく
真実の浄信 億劫にも獲がたし
遇 行信を獲ば 遠く宿縁を慶べ

〈念仏〉

南無阿弥陀(仏) 南無阿弥陀(仏)
南無阿弥陀(仏) 南無阿弥陀(仏)
南無阿弥陀(仏) 南無阿弥陀(仏)
南無阿弥陀(仏) 南無阿弥陀(仏)
南無阿弥陀(仏) 南無阿弥陀(仏)
南無阿弥陀(仏) 南無阿弥陀(仏)

〈慶喜〉

慶ばしいかな 慶ばしいかな
心を弘誓の仏地に樹て
念を難思の法海に流す
深く如来の矜哀を知りて
誠に師教の恩厚を仰ぐ
慶喜いよいよ至り 至孝いよいよ重し

〈悲歎〉

誠に知んぬ 悲しきかな
愛欲の広海に沈没し
名利の太山に迷惑して
定聚の数に入ることを喜ばず
真証の証に
近づくことを快しまざることを
恥づべし 傷むべし

〈念仏〉

南無阿弥陀 (仏) 南無阿弥陀 (仏)
南無阿弥陀 (仏) 南無阿弥陀 (仏)
南無阿弥陀 (仏) 南無阿弥陀 (仏)

〈敬信〉

真宗の 真宗の 教行証を敬信して
きようぎようしやう きようしん

如來の恩徳 深きことを知んぬ
にょらい おんじく ふか し

聞くところを慶び
き よろこ

獲るところを嘆ずるなり
う たん

〈念仏〉

南無阿弥陀 (仏) 南無阿弥陀 (仏)
南無阿弥陀 (仏) 南無阿弥陀 (仏)



南無阿弥陀 (仏)

南無阿弥陀 (仏)

南無阿弥陀 (仏)

南無 南無

南無 南無

阿弥陀 (仏)

阿弥陀 仏

〈回向文〉

誠なるかな

誠なるかな

誠なるかな

撰取不捨の真言
せつしゆふしゃ しんごん

超世希有の正法
ちやうせけう しようぽう

聞思して 聞思して
もんしもんし

遅慮することなかれ
ちりよ

と、節付きで詠います。

今回は、所々音程が外れてしまい、ごまかしながらのおつとめでした。

次回は、もっと練習して、親鸞聖人の思いがしんみりと伝わるように、聞き惚れるようなおつとめを心がけたいと思います。

〈お話の一部〉

情念について



情念の世界でうごめいている私たちです。「情念」とは、私の感情が強く押し出されたイメージを持ちます。親鸞聖人は正信偈で「還来生死輪転家 決以疑情為所止」と私どもの「こころ」を「情」で表現しておられます。一方「念」は「念仏」を表わしておられます。阿弥陀さまのおこころを漢字で表わすときは「心」をお使いのようです。「聞といふは、仏願の生起本末を聞いて、疑心あることなし、これを聞といふ」とありますが、この「疑心」について、「私どもの心に疑いがなくなる」と訳されるようですが、阿弥陀さまの「疑蓋無雑」のお心を表わしており、阿弥陀さまのお心には疑い偽りがなくことを信知することとを「聞」というのだとおっしゃっているのだと思います。先の正信偈の御文は、法然聖人の言葉として、「私たちの疑いの心が、迷いの世界に留めている」と訳されておりませんが、「還来」の言葉が加えられているので、「仏様が、この迷いの世界に還ってくるのは、私たちに〈疑情〉があるからこそ」と訳すべきかと思いますが如何でしょうか。疑情の「疑」は煩惱の一つの「疑」、疑うという意味だけではなく、私たちのこころは「疑情」そのものだと言わないでしょうか。複雑に入り乱れた心ではない私たちですが、お念仏申す身には、常に阿弥陀さまのお心に包まれていると「情念」から味わえたらと思います。

現世利益和讃について

二首目

さんげ でんぎようだいし
山家の伝教大師は

比叡の山なり

こくどにんみん

国土人民をあはれみて

しちなんしょうめつ

七難消滅の誦文には

消えしむ

なもあみだぶつ

南無阿弥陀仏をとなふべし

そらにうかべよむを誦といふ

【現代語訳】

比叡山の伝教大師最澄は、この国の人々が様々な災難に遭遇し苦しんでいる相をあわれみ悲しんで、七種の天災地変の災難を消滅させる『七難消滅護国頌』をつくり、そのなかで南無阿弥陀仏の念仏を称えるよう勧めておられます。

欽明天皇の時に日本に伝来した仏教は、最澄と空海によって代表される平安仏教において、しだいに日本人の生死観に影響を及ぼすようになります。天台宗や真言宗は鎮護国家の色彩の強い仏教です。

親鸞聖人が修行された比叡山天台宗延暦寺の開祖は、伝教大師最澄です。最澄は、十四歳で得度、十九歳で比叡山に入り草庵を構えます。延暦七年（七八八年）根本中堂を創立、以後、『法華経』『仁王経』『金光明経』等の護国経典を講じて桓武天皇の信任を得て、八〇四年三十八歳にして還学生として渡唐し翌年帰朝。八〇六年天台年分度者の勅許を得、更に大乘戒壇の設立に努力し、弘仁十三年、五十六歳で寂静。

先の『法華経』『仁王経』『金光明経』の三部経を読誦して天皇と人民の幸せを祈る法要（法会）に読む願文を「誦文」と言われました。例えば、『法華長講会式』もその一つで、そこには阿弥陀仏と記されているそうです。

法然聖人の『和語灯録』に「伝教大師の七難消滅の法にも念仏をつとむべしとみえて候」とあります。また存覚さん（親鸞聖人の曾孫の長子）の『持名鈔』には、
嗟峨の天皇の御時、天下に日てり、雨くだり、病おこり、戦いできて国土おだやかならざりしに、いづれの行のちからにてかこの難はとどまるべきと、

伝教大師に勅問ありしかば、『七難消滅の法には南無阿弥陀仏にしかず』とぞ申されける

とあります。嗟峨天皇の問いに対して、伝教大師は、日照り、水害、疫病などの種々の災難（七難）を消滅するには、南無阿弥陀仏と名号を称えることが一番だと、『金光明経』金陀羅尼品の中の「南謨（無）西方阿弥陀仏」を称えることをすすめている説示を基に答えておられます。その『七難消滅護国頌』には、

大日本国四海の内、有らゆる一切含識の類、・・・天災地変七難等、皆悉く滅除して更に起らず、十方諸仏哀愍して護りたまふ、・・・大日本人の依正、国家隆平にして人道を求む、依正安穩にして念仏を修せん
とあります。

「七難」については、第一首でも取り上げておりますが、いくつかの経典に説かれる「七難」を列挙してみます。

- ①『仁王般若経』下「受持品」
 - (1) 日月失度難 (2) 星宿失度難
 - (3) 災火難 (4) 雨水変異難
 - (5) 悪風難 (6) 亢陽難
 - (7) 悪賊難

※伝教大師の『顕戒論』に出す。

㊦『法華經』「普門品」

- (1)火難 (2)水難 (3)羅刹難 (4)刀杖難
(5)鬼難 (6)枷鎖難 (7)冤賊難

㊧『藥師琉璃光如來本願功德經』

- (1)人衆疫癘難 (2)他国侵逼難
(3)自界叛逆難 (4)星宿變怪難
(5)非時風雨難 (7)過時不雨難

㊨『陀羅尼集經』卷十

- (1)王難 (2)賊難 (3)水難 (4)火難
(5)羅刹難 (6)荼枳你難 (7)毒藥難

親鸞聖人の著作中「消滅」「滅」は多くは人間
の「罪障」「罪惡深重」※自身は現にこれ罪惡
生死の凡夫、曠劫よりこのかたつねに没し、つ
ねに流転して、出離の縁あることなし)、三垢
(貪欲・瞋恚・愚痴)、「苦しみ」に対する言葉と
して使っているようです。ですから、自然災害
とか病気を「消滅」するという意味には捉え
ていないのだと思われます。

また、第一首の「息災延命」の「息」の字が、気
になってしまいます。

「息」には「生きる」イメージが強いのですが、
何故か「やめる・しずめる」意味があります。

「息災」とは、元々仏教の言葉で、「病氣や災
害といった災いを、仏さまのお力で止める」と
いう意味があるそうです。

人は自分の力で、リズムをとって息をするこ
とや、一時的に息を止めることが出来ませんが、

殆どは無意識に息をしているのだと思います。
それは、息を吸い吐くというのは、自然の仕業
で、人自身のはからいではないことを、仏教で
は教えているのではないのでしょうか。それは、
自然災害とか病氣は、人の力で無くすことは
出来ないことを示唆しているのだろうと思い
ます。

現代は、科学・医療が発達し、人間がこれら
の災害を防げるようになったことも確かで、人
の叡智の恩恵も感じます。現在の新型コロナ
ウイルス感染においても、研究が進み、科学的
根拠に基づき、見えないものがある程度見え
るようになり、人々を安心させています。それ
でも、科学が万能ではないことを、人々の行
動・思いに対して警鐘を鳴らしています。

新型コロナウイルス感染がパンデミックを起
こした当初、いくつかの宗教団体が、集会を開
き、感染が収まるようにと祈りました。それが
逆効果であったことは、当然の成り行きであっ
たことは誰の目にも明らかだったはずで、そ
こには、神仏の働きを期待していたというよ
り、私は、祈る人間の力を慢心していたように
も思えました。

この和讃には、「七難消滅の誦文」とありま
す。「じゅもん」の響きから「呪文」をイメージし
てしまいましたが、「誦文」と「呪文」は明らかに
違います。

「誦文」は左訓にあるように、「そらにうかべ
よむ」と言うように、暗記して称えるものとあ
ります。それだと「呪文」とあまり変わらない

のです。私は暗記していないのですが、知り合
いには『仏説阿彌陀經』をそらで読める人もい
ます。親鸞聖人も病で伏せていた時、浄土三部
經が目には浮かばれたと言われています。が、誰
にでも出来る暗記は「南無阿彌陀仏」しかない
と思います。

この第一首・第二首は、直接的に、お念仏を
称えたら、無病息災・七難を避けられると仰っ
ておられるのではないようです。仏教は、現世
の平安と人々の幸せを目指すもので、その目
的が脈々とお釈迦さまから日本の仏教に受け
継がれていることを伝えようとしているのだと
思います。そして、災害・疫病に悩まされてい
る多くの人々が、「厭離穢土」から「欣求浄土」
を願うのが、「お念仏」ではないことを示そう
とされていると思うのです。「厭離穢土」を先に
求めるのは「自力」ですと親鸞聖人はおっ
しやっておられます。

「欣求浄土」と言う真の「願生心」は阿彌陀さ
まのはたらきであるとおっしゃっておられま
す。

その「願生心」(必ず仏になさしめられる)を
いただくことが、「大利」というもので、現世に
おける利益だということではないでしょうか。

〈参照〉

- 『三帖和讃ノート浄土和讃篇』豊原大成氏著
『浄土和讃を読む』白川晴顕氏著
『聖典セミナー浄土和讃』黒田覺忍氏著
『生命還流』大峰顕氏著
『親鸞聖人「和讃」入門』山崎龍明氏著・コトバンク

親鸞聖人御誕生八五〇年

立教開宗八〇〇年 慶讃法要企画

親鸞聖人を知ろう

従来、この下妻での夢につきましましては、親鸞は六角堂の夢告によって恵信尼のことを観音菩薩と思っていたし、恵信尼も親鸞を観音菩薩と知り、夫婦お互いに観音菩薩と思つて尊敬しあつていたというようにいわれてきました。そのような解釈でもよろしいのでしょうかけれども、私の考えは、もう少し恵信尼寄りの立場に立つてみると、違うことが見えてくるのではないかとこのことなのです。なぜわざわざ関東の入り口でそのような夢を見たのか。単に親鸞を観音菩薩とするだけなら、その夢は結婚当初京都で見てもよかったです。なにかということなのです。「ああ、いい人と結婚できてよかったです」というような気持ですね。なぜ十年もたつてから、しかも関東の入り口でこの夢を見たのでしょうか。

それはやはり、十年も連れ添えば自分の夫について、いくら最初に尊敬したとしても、少し飽ききたりしたこともあつたのではないかと思ふのです。それに恵信尼の生活の悩み。関東へ行つて生活できるのかという深刻な悩み。しかしそれらの逡巡する気持ちを一度に変えてしまつたのがこの下妻での夢だと思ひます。

自分の意識のなかで軽くなり始めていた夫が尊敬する法然と一緒に並んでゐる。しかも観音菩薩の生まれ変わりであつた。「これなら一緒にやつていける、これなら一緒に関東で苦労し

よう」と思い直したのではないのでしょうか。自分の夫を再び自分の意思で選び直したのではないのでしょうか。恵信尼三十三歳の決意の表明。それがこの夢であろうと私は思ふのです。

恵信尼の立場に立つてみますと、彼女は夫の主導のもとに生活をしてきたわけですね。その上で、自分自身としてはどう生きるかという悩みです。前に申しあげましたように、関東へ行けば自分でご飯を作らなければいけないかもしれない。育児はどうしよう。子どもが無学になるかもしれない。恵信尼は京都の貴族の娘として教育を受けてきたけれど、関東へ行つたらそういう保証はありませんね。恵信尼としてはせつぱつまつた状況で、関東へ入つてからもためらつていた。ああ、とうとう関東へ来てしまつた、どうしよう、と。

このような状況のなかでもう一度決心し直すことができた。その決心のきっかけが下妻での夢だと思ひます。自分の夫が観音菩薩の生まれ変わりというのは、まあ、それ以前から感じていたのかもしれませんが。そう思ひたいということだったのかもしれませんが。でもいざにしてもし、下妻で自分の夫が尊敬できると実感しました。それで以後親鸞との夫婦生活を八十何歳まで続けることができたということであろうと思ふのです。

親鸞も偉いと思ひますね。十年あまり恵信尼をそこまで見守つてきたということでしょう。親鸞の立場からいうと、九歳年下の妻が自分に近づいて来てくれるのを待つていた、そういう感じもいたします。

関東での生活

親鸞と恵信尼の一家が関東でそんな所に住んでいたか、全部はわかりません。一番長く住んでいたのは笠間市の稲田だろうと思ひます。親鸞には、昔から親鸞聖人門弟二十四輩と申しまして、二十四人のすぐれた門弟がいたといわれています。「二十四」は「二十し」ではなく

「二十よ」と読みます。二十四輩の伝統は今日まで続いています。もちろん、二十四輩だけではなく、他にもすぐれた門弟はいました。

そういった最初のころの弟子たちの住んでいた所は、ちやうど稲田を中心にした三十五、六キロ、あるいは四十キロくらいの円のなかにほとんど全部入るのです。親鸞は歩いて教えを伝えるに行つたのでしょうか。人間は一時間にどのくらい歩けるかというと、四キロあるいは五キロです。四キロとすると目的地まで四十キロで十時間かかります。五キロなら八時間、もつと早く歩けば七時間。つまり朝に稲田を出て、夕方に目的地に到着します。門徒の人たちは昼間は働いています。そこで親鸞は夜に教えを説き、翌朝見送られて帰るといふ一泊二日の日程の念仏布教の活動をしていました。私は思ふのです。

その留守の間、草庵を守つていたのが恵信尼ということになります。ですから、のちの時代風にいえば坊主としての恵信尼ということになります。また五人ほどの子どもを育てるのはなかなかたいへんですね。いくら昔はほつたらかしたつたといつても、そうもいきません。それに将来、京都へ連れていつても大丈夫なように教育しなければなりません。最後に生まれたのが「王」という名前の覚信尼です。その子どもたちを育てて二十年というとき、親鸞が京都帰るといふ事態になります。

常陸国に残る恵信尼

六十歳のころ、親鸞は京都へ帰ります。親鸞に関する伝記には、『善信上人絵』に、

聖人、東関の堺を出て、花城の路に赴きまし
ましけり。

などとあるように、あっさりと言われている。京都へ帰ることになった事情については、詳しいことはわかりません。そこで昔からいろいろな人たちが推測を加えています。親鸞が関東へ来ることになった事情について推測が加えられているのと同じです。

恵信尼は五十歳少し過ぎですね。そのとき恵信尼がどうしたかについての確実なことも、依然として謎です。親鸞と一緒に京都へ帰ったという説とか、常陸国に残った、越後国へ移った、などという説があります。最終的には越後国へ移ります。私はこのときは恵信尼は常陸国に残ったと思っています。

笠間の稲田草庵の伝統を受け継ぐ西念寺の近くに、見返り橋の伝説というのがあります。親鸞が一人で京都へ帰ることになり、恵信尼をはじめ家族や門弟たちが見送っている。歩き始めた親鸞が振り返って別れを惜しんだのが小川にかかる橋の上であると。いまでも西念寺の西側のたんぼのなかに見返り橋があります。いまはもう、コンクリートの橋です。実は近年に耕地整理が行われまして、見返り橋の位置も少し変わって、川もほとんどなくなりまして。川が完全になくなってしまふと伝説を語るには具合が悪いかからでしょう、ほんのわずかの長さの「川」が残されました。江戸時代の図面を見ると、こゝれまた見返り橋の位置が異なっています。最低二回は見返り橋の位置が解っているので苦笑い

させられます。

また恵信尼については、中世に描かれた古い絵像が三点残されています。西念寺と水戸市の善重寺と、それから龍谷大学図書館の所蔵です。いずれも、やさしげな、年配の尼さんの姿です。そしてこれらは全部、もとは関東に伝来されてきた絵像なのです。

さらに、恵信尼は関東の門弟たちにとどのよう
に思われていたかという問題があります。私の
考えでは、恵信尼は門弟にたいへん親しまれて
いたと思います。室町時代に書かれた『親鸞聖
人御因縁』という本があります。これは関東の
伝説を文字にしたものだと言われます。「『親
鸞聖人御因縁』のなかに、恵信尼ではなく玉日
姫という名前になっていますが、結婚したばか
りのころ、法然が恵信尼を見て、

子細なき坊守なり、
「文句のつけようのない立派な坊守ですね」と
いったという話が載っています。

つまり関東では、恵信尼はたいへんすぐれた
坊守さんとして伝えられていったということな
のです。もし関東の人間に嫌われていたとした
ら、そのような恵信尼に好意的な伝説は残って
いなかったのではないかと私は思うのです。

やさしげな年配の尼さん姿の何点かの絵像。
見返り橋の伝説。そういったことを合わせて考
えますと、ここから先にまったくの推測なので
すが、親鸞が京都へ帰りたいといったとき、恵
信尼は、「ええ、どうぞ、私は残ります」と
いったのではないかという気がしております。
その方が自然のような気がします。ここには、
夫婦は常に一緒にいなければならぬものなの
かという非常に微妙な問題が絡みます。

四 恵信尼の信仰

ここで恵信尼の信仰について、少しだけ申し
あげておきます。恵信尼は、極楽はどういう所
かということについて、八十七歳のときの最後
の手紙に書いています。極楽は、

なに事も暗からずこそ候はんずれ。

「何も暗いことはありません、すべて明るい所
です」というのです。「なに事も暗からずこそ
候はんずれ」という表現では、文法的に見る
と、暗くはないということ強調しているのだ
です。極楽は明るい直接にはいいないの
です。

恵信尼は亡くなる最後までいろいろ苦労した
ので、現世の暗い部分を数かぎりなく見てきた
のでしょう。ですから、極楽は明るい単純に
はいえなかったのではないのでしょうか。暗くは
ないという表現には、極楽に高望みをしていな
いことが感じられるのです。

五 おわりに

今回申しあげたかったのは、人間として自立
した恵信尼です。恵信尼は親鸞と一緒に生活を
するという道を自分の意思で選び取った。その
ために努力して人生を過ごした人であるとい
うことです。

ではその結果、親鸞は恵信尼からどうい
う影響を受けたのでしょうか。恵信尼を人生の伴侶と
していたことにより、親鸞の信仰はどのような
影響を受けたのでしょうか。それは単純にいつ
て、恵信尼がいたからこそ、あるいは子どもた
ちがいたからこそ、親鸞の今日に伝えられてい
る信仰があったと思うのです。

稱讚寺 行事予定

二〇二二年 一月の行事予定

- 六日(木) のんのん法話会 午後二時
- 九日(日) 日曜礼拝 午前十時
- 一六日(日) 日曜礼拝 休座
のんのん法話会 午後二時
御正忌報恩講
- 一三日(日) 日曜礼拝 午前十時
- 二六日(水) のんのん法話会 午後二時
- 三〇日(日) 日曜礼拝 午前十時
- ※毎朝七時 おあさじ
- ※毎夕六時 おゆうじ

二〇二二年 二月の行事予定

- 六日(日) 日曜礼拝 午前十時
のんのん法話会 午後二時
- 一三日(日) 日曜礼拝 午前十時
- 一六日(水) のんのん法話会 午後二時
- 二〇日(日) 日曜礼拝 午前一〇時
- 二六日(土) のんのん法話会 午後二時
- 二七日(日) 日曜礼拝 午前一〇時

二〇二二年 三月の行事予定

- 六日(日) 日曜礼拝 午前十時
のんのん法話会 午後二時
- 一三日(日) 日曜礼拝 午前十時
- 一六日(水) のんのん法話会 午後二時
- 二〇日(日) **春期彼岸会** 午後二時
- 二六日(土) のんのん法話会 午後二時
- 二七日(日) 日曜礼拝 午前一〇時

編集後記

「シンギュラリティ」ってご存知ですか。二〇一七年に、レイ・カーツワイルという方が、「自らを改良し続ける人工知能が生まれ、二〇四五年には、人間の脳を超える、その時がシンギュラリティだ」と提唱していました。

私は、二〇二一年十二月まで、そのことを知りませんでした。AI(人工知能)の発達はめまぐるしく、どんどん便利になって良いことだとしか思っていませんでした。

このシンギュラリティは起こらないと否定的な専門家もおられますが、肯定的な専門家には、シンギュラリティ現象は二〇三〇年から始まるという方もおられます。また、利便性だけではなく、経済・社会の変化、人間のあり方にも影響するだろうと言われています。極端な事かもしれないですが、AIが人間を支配し、AIにより、私たちは存在しているのかも知れないとまで言われております。

今日の新型コロナウイルスのパンデミックで、感染が抑えられている国と抑えられていない国を見ると、圧倒的に民主主義の国が感染が収まっています。一方、権威主義と言われる国ほど収まっています。データからは外から見ると良いようにさえ思えます。

どの国も権力闘争があり、管理社会に進んでいる気がします。人類が地球を滅ぼしていることに、漸く気づきだし「SDGs」を提唱されてはいますが。

「諸行無常」と言われるけど、この世界の未来の有り様はどうなっていくのでしょうか。末法一万年は急速に縮まっているようです。

「おかげさまで」と

としく

年暮れる

二〇二二年「心のともしび」十二月カレンダーより